

## 「表語文字」だけが本当の文字

「手」といふ字と「授」と「受」とは中国語では全て同じ発音をします。つまり元は一つの言葉だったのです。「手」そのものが、「受け取る」ことも「授ける」ことも意味しました。

「手にする」ことは「受け取る」ことであり、同時に手渡す、即ち「授ける」ことにもなります。ですから、中国人は、「手」という言葉(文字)で、「受け取る」「授ける」ことをも表してゐたのです。所が「手」といふ字では、目で見ただけの場合「手」と「授」と「受」との区別が出来ません。それで「手」とは別に「受」「授」といふ字を作りました。かうすれば見た瞬間に区別が出来ます。「授」と「受」といふ字を作ることが文字における進歩なのです。

このやうに文字は、言葉の足りないところをどんどん補って発展して行きました。ですから、文字を単に発音を表すだけに用ひることは、とても発展とは言へません。「表語文字」であれば、「手」そのものなのか、「受」けることなのか「授」けることなのか、見た瞬間に判別出来ます。まして現代のやうに情報を短時間により多く、かつ正確に受け取らうといふ場合、表音文字によって情報を受け取るのと、漢字のやうな「表語文字」で受け取るのでは、それは大変な違ひが生じます。

実は、このことはもうずっと前から確信してゐたのですが、それが近頃実証されたそうです。ソニーの井深大さんから聞いた話ですが、「アメリカのマサチューセッツ工科大学で実験したのですが、世界で使はれてゐる表記について、それぞれ読み取る速度を計った所、日本の漢字かな混り文が最も、効率がよいことが判った」といふことです。

この実験結果から、「日本語の漢字かな混り文は、情報をキャッチするのに世界で最も効率が高い表記法である」といふことが証明されたと言つて可いであらう。

文章を目で読み取ることは、耳で聞くよりもはるかに効率が高いものです。ですから、ニュースを耳で聞くよりも、新聞で読むほうが速くてかつ正確です。益々情報化の進む世の中では漢字かな混り文による伝達方式が、国際競争で有利なことは明らかです。明治の発展も、敗戦後の経済復興も、いろいろな理由が考へられますが、その基本には、情報を速く、正確に捉へる、といふ利点があったことは間違ひないと思ひます。